第1分科会:話すこと･聞くこと
キーワード：他者の考えを引き出す，他者との比較，自己開示，働くことの価値

# 国 語 科 学 習 指 導 案

## 1　単元名

働くことの価値について自分の考えを深めよう～自己開示を通して他者の考えを引き出す～

## 2　単元の目標

(1) 意見と根拠，具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2)ア

(2) 論理の展開などに注意して聞き，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめることができる。〔思考力，判断力，表現力等〕A(1)エ

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに，進んで読書をし,我が国の言語文化を大切にして,思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力，人間性等」

## 3　本単元における言語活動

話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめるために，論理の展開に注意して話合いをする。(関連：〔思考力，判断力，表現力等〕A(2)ア)

## 4　単元設定の理由

### (1) 本単元で扱う言語活動と教材

本単元では，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめるために，論理の展開に注意して話合いをする，という言語活動を行う。これは中学校学習指導要領(平成29年告示)国語編第2学年,〔思考力，判断力，表現力等〕A話すこと・聞くことの言語活動例ア「説明や提案など伝えたいことを話したり，それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動」を踏まえ，質問する活動に重点を置いたものである。聞き手が質問をするためには,

①話し手の考えを理解している。

②話し手の考えでわからないことがある。

という状況を意図的に生み出す必要がある。また,他者の考えを事前に把握することによって,より効果的な質問ができると考える。

そこで本単元では，事前に自己開示をし，話合いをするという活動を行う。自己開示とは，自分の考えや価値観などの内面を他者に示す行為のことである。自分が自己開示をすることにより，他者が何を知りたいかを明確に考えることができる。

自己開示をするときや，自分の考えが話合いによってどのように変容したのかを見取るために，自分の考えを可視化した思考ツールとして「脳内ボート」を話合い前と話合い後にそれぞれ作成する。

「話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめる」という力を身に付けるためには，話合い活動において生徒自身が自分の考えをもち，様々な考えが出されるテーマ(課題)にしたいと考えた。

そこで本単元では「価値観」に着目し，生徒がこれから生きていく上で考えるであろう「働くことの価値(労働価値)」をテーマとする。そして，そのテーマについて考えるためにドナルド･E･スーパー氏が提唱した「14の労働価値」を教材として用いる。働くことの価値を意見と根拠を提示しながら考え，他者の価値観と触れ合うために話合いを行う。「14の労働価値」から選択することで自分の考えがもちやすくなり，今まで考えてこなかったテーマだからこそ意欲的に取り組むことができる。「働くことの価値(労働価値)」をテーマとし，話合いという言語活動を行うことにより，現段階での労働価値について考えることができる。自分が他者に何を

聞きたいのか，知りたい情報は何なのかを考えた上で場面に応じて質問をし，他者の価値観と比較し自分の考えをまとめさせたい。

**(2) 本単元で身に付けさせたい力**

本単元では働くことの価値を見出すために，論理の展開に注意して話合いをする，という言語活動を通して，〔思考力，判断力，表現力等〕のＡ（1）エ「論理の展開などに注意して聞き，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめることができる」力を身に付けさせたい。

現代社会において情報はネット上から手軽に入手でき，ＡＩの活用も幅広く行われている。仕事でもプライベートでもメールなどの文字でのやり取りが増え，買い物や学習などの日常生活の場面でも，他人と接することなく完結できる。また，新型コロナウイルスの影響で話合い活動に制限がかかっていたため，授業の中で話合い活動がほとんど行えていなかった。このような状況から，話し手が一方的に話をし，聞き手が当たり障りのない質問をするという形だけの話合いになってしまうことがたびたび見受けられる。自分の考えをもつことはできても他者に伝えたり，話し合ったりして考えを深め広げることに苦手意識があり，会話のキャッチボールが上手にできない生徒が少なくない。

しかし，人と人との良いつながりを作るためには他者の考えを理解した上で，自分の考えを伝えることが重要である。つまり，他者の考えを理解する「聞き手」の育成が必要だと考える。

そこで，本単元では他者の考えを引き出す質問をし，それを基に自分の考えを深めるという力を身に付けさせたい。また，深まった考えを共有することにより，考えを引き出す質問が自分にも他者にも影響を与えることを実感させたい。

「聞き手」の育成にむけて，学習指導要領では，第１学年は「必要に応じて記録したり質問したりして」，第２学年は「論の展開などに注意して」，第３学年は「話の展開を予想しながら」と話を聞く際の視点として挙げられている。その上で，第２学年では「話し手の考えと比較しながら」自分の考えをまとめたり広げたり深めたりしていくことと示されている。

「聞き手」「話し手」双方が，それぞれの伝えたいことを理解し合えるということが話合いの基礎である。そのため，聞き手自身も話合いを主導する場面となる質問の方法を学ぶことは，互いの理解を深める上で重要である。

**(3) 社会生活とのつながり**

今日では生活様式の変化によって，対面によるコミュニケーションの機会が減少してしまい，話合い活動において他者の反応や熱量，空気感が読み取れず，一方的な伝達に終始してしまうことが増えている。

令和２年度「国語に関する世論調査」でも，「ビデオ通話やウェブ会議等で気を付けていることは何ですか」という問いに対し，「ほかの人の表情や反応に気を付けるようにしている」と答えた割合は 27.3%に留まっており，話し手が他者を念頭に置かない会話の環境が広まりつつある。そのような社会だからこそ，生徒たちには本単元を通して，他者の考えを引きだし，自分の考えと比較することで，より自分の考えを深められるということに気付き，これからの社会生活の中で生かしてほしいと考えた。

社会生活では，たくさんの人たちとの関わりがあり，その関わりの中で多様な考えや価値観があることを知り，その上で自分の考えを求められたり，決断したりしなければならない場面がある。自分の考えをより明確にするためには自分の考えだけではなく，他者の考えと比較をし，考えを深め広げる必要がある。本単元を通して，その必要性を実感させたい。

## ５　単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|

| | | |
|---|---|---|
| ①意見と根拠，具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) | ①「話すこと・聞くこと」において，論理の展開などに注意して聞き，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめている。(A(1)エ) | ①粘り強く表現を工夫し，学習の見通しをもって他者の考えと比較をしながら自分の考えをもとうとしている。 |

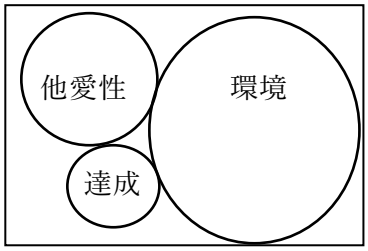
**６　指導と評価の計画（６時間）**

| 時 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | ○単元の目的・目標を提示し，学習の見通しをもつ。<br>○「14 の労働価値」について，次時の働くことの価値を考えることに結び付ける。 | 〔知識・技能〕 | ワークシート |
| 2 | ○働くことの価値を考える。<br>○自己開示ができるように，ワークシート（思考ツール）を作成する。<br>○ワークシート（思考ツール）を参考に，他者に伝わるように自分の考えをまとめる。 | 〔知識・技能〕 | ワークシート |
| 3 | ○話合いの方法を学ぶ。<br>○他者の考えを引き出すためにはどのように質問をすればよいかを学ぶ。<br>○話合いを行うグループを確認する。<br>○他者の考えを引き出す質問を考える。 | 〔思考・判断・表現〕 | ワークシート |
| 4 | ○他者の考えを引き出すための話合いを行う。<br>○自分の考えを他者の考えと比較し，考えをまとめ，ワークシート（思考ツール）を作成する。 | 〔思考・判断・表現〕<br>〔主体的に学習に取り組む態度〕 | 観察<br>動画<br>ワークシート |
| 5 | ○自分の考えを他者の考えと比較し，考えをまとめ，ワークシート（思考ツール）を完成させる。<br>○ワークシート（思考ツール）を参考に，自分の考えがどのように変化したかをまとめる。 | 〔思考・判断・表現〕<br>〔主体的に学習に取り組む態度〕 | 観察<br>動画<br>ワークシート |
| 6 | ○働くことの価値について，話合いを経て自分の考えがどうなったのか発表し合う。<br>○他者の考えが自分の考えにどう反映されているのか，自分の考えが他者にどのように反映されているのか確認する。<br>○本単元の振り返りを行う。 | 〔思考・判断・表現〕 | 観察<br>動画<br>ワークシート |

**【単元の流れ】**

| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ○学習のねらいや進め方をつかみ，学習の見通しをもつ。<br><br>○「14 の労働価値」について理解し，次時の働くことの価値を考えることに結び付ける。 | ・本単元では他者の考えと比較しながら，自分の考えをまとめる力を身に付けるために，働くことの価値について話合い活動を行うことを知らせる。また，主体的に学習に取り組めるように学習の見通しを示す。<br>・「14 の労働価値」のそれぞれの意味を説明する。<br>・理解が難しい生徒に対しては身近な具体例等を提示し，理解を促す。 | ［知識・技能］<br>ワークシート<br>・ここでは，「14 の労働価値」を理解し，自身の働くことの価値を考えているかを確認する。 |
| 2 | ○働くことの価値を考える。<br><br>○自分の考えが他者に伝わるように内容を考える。 | ・「14 の労働価値」の中から自分が働く上で，大切だと思う働くことの価値を３つ以内で選ばせる。選んだ理由含め「脳内ボード（思考ツール）」にまとめさせる。<br>・「脳内ボード」を参考に，自分の考えを他者に伝えるためにはどのように話せばよいか意見と根拠，具体と抽象など情報と情報との関係に着目して考えさせる。<br>・自分の考えがまとめられていない生徒には選んだ労働価値に対して，①自らの経験や体験を引き出し，書くように促す。②どの部分が意見で，意見に対する根拠は何かを捉えさせながら自分の考えをまとめさせる。 | ［知識・技能］<br>ワークシート<br>・ここでは，自分の考えが「脳内ボード」を通して他者に伝わるように自己開示できているか，意見と根拠，具体と抽象など情報と情報との関係に着目して表現することができているかを確認する。 |
| 3 | ○話合いの方法を学ぶ。<br><br>○他者の考えを引き出すためにはどのように質問をすればよいかを学ぶ。 | ・話合いの設定やグランドルールを確認し，話合い活動の見通しをもたせる。<br>・自己開示とは何か，自己開示をすることの意味を説明する。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | **自己開示とは**<br>・自分の考えや価値観などの内面を他者に示す行為のこと。<br>**自己開示をすることの意味**<br>・話合いの前に，自己開示をすることにより話し手の考えを理解できる。<br>・考えを理解した上で，共通点や相違点を知ることができる。<br>→質問ができる→質問をすることによって他者の考えを引き出すことができる。 | | |
| | ○話合いを行うグループを確認する。<br><br>○自分の考えを深めるために他者の考えの根拠や背景を引き出す質問を考える。 | ・話合いを行うグループのメンバーに自分の「脳内ボード」を見せ，働くことの価値について自己開示させる。<br>・他者の「脳内ボード」との共通点や相違点に着目しながら，質問を考えさせる。<br>・質問が思い浮かばない生徒には自分が聞きたいことは何か。なぜ聞きたいのか。そのことについて自分はどう考えているのか。その情報を引き出すにはどのような質問をするのがよいのかを考えさせる。 |  <br>（脳内ボード例）<br><br>［思考・判断・表現］<br>ワークシート<br>・ここでは，他者から聞きたい情報を引き出すための質問の工夫を考えているかを確認する。 |
| 4<br>**本時** | ○話合いの方法を確認する。<br><br>○他者の考えを引き出す話合いを行う。<br><br><br><br><br>○自分の考えと他者の考えを比較し，考えをまとめる。<br><br><br>○「脳内ボード」を作成する。 | ・話合い活動の見通しをもたせる。<br>・４～５人のグループを作り話合いを行い，必要に応じてメモをとらせる。<br>・タブレットを使い，他者の考えを記録させる。<br>・話合いの展開に注意しながら，質問をさせる。<br>・撮影した動画やメモを見て，自分の考えと他者の考えを比較し，自分の考えをまとめさせる。<br>・話合いを経てまとまった自分の考えを参考に，「脳内ボード」を作成させる。 | ［思考・判断・表現］<br>観察・動画<br>ワークシート<br>・ここでは，他者の気になる考えや影響を受けた考えなどを基に比較しながら，自分の考えをまとめているかを確認する。<br><br>［主体的に学習に取り組む態度］<br>観察・動画<br>ワークシート<br>・ここでは，話合いを振り返り，自分がした質問により他者の考えと自分の考えを比較して，自分の考えを深めようとしているかを確認する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 5 | ○「脳内ボード」を完成させる。<br><br>○「脳内ボード」を参考に，自分の考えがどのように変化したかをまとめる。 | ・話合いを経てまとまった自分の考えを参考に，「脳内ボード」を作成させる。<br>・話合いを経て，自分の考えがどのように変化したのか。また，誰のどのような考えに影響を受けたのかを説明できるよう具体的にまとめさせる。<br>・自分の考えがまとめられていない生徒には，最初と最後の「脳内ボード」を比較させる。その上で自分の考えが変化した根拠は何かを捉えさせる。 | ［思考・判断・表現］<br>観察・動画<br>ワークシート<br>・ここでは，他者の気になる考えや影響を受けた考えなどを基に比較しながら，自分の考えが変化した根拠は何かを捉えているかを確認する。<br><br>［主体的に学習に取り組む態度］<br>観察・動画<br>ワークシート<br>・ここでは，話合いを振り返り，自分がした質問により他者の考えと自分の考えを比較して，自分の考えを深めようとしているかを確認する。 |
| 6 | ○発表の方法を確認する。<br><br>○働くことの価値について，話合いを経て自分の考えがどうなったのか発表し合う。<br><br>○本時の振り返りと本単元の振り返りを行う。 | ・話合い活動の見通しをもたせる。<br>・「他者の考えと比較する」という視点で考えがまとまっているかを確認させる。<br>・他者の考えが自分の考えにどう反映されているのか，自分の考えが他者の考えにどのように反映されているのかに着目させる。<br>・他者の考えと比較することでどのような効果があったか。本単元でどのような力が身に付いたか考えさせる。 | ［思考・判断・表現］<br>観察・動画<br>ワークシート<br>・ここでは，「他者の考えと比較する」という視点で自分の考えがまとまっているか，他者の考えが自分の考えにどう反映されているのか，自分の考えが他者の考えにどのように反映されているのかを理解しているか確認する。 |

**【参考文献】**


・北野唯我・百田ちなこ（2020 年）.『これからの生き方。自分はこのままでいいのか？と問い直すときに読む本』. 株式会社世界文化社

・ Donald.E.Super『 Life Role,Value,andCareers;International Findings of the Work Importance Study』.Jossey-Bass

・文化庁「『令和２年度国語に関する世論調査』の結果について」
https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/